



復興まちづくり通信

一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

一般社団法人復興みなさん会に

復興大臣から感謝状

被災地の復興に向けた取り組みに尽力

吉野正芳復興大臣が8月8日、南三陸町を訪れ、東日本大震災の被災地の復興に向けた活動に取り組んでいる南三陸町と気仙沼市の団体に感謝状を贈りました。贈られたのはコミュニティ支援や地域づくり、震災体験や教訓の伝承活動などを行っている9団体です。歌津総合支所で行われた贈呈式には、一般社団法人復興みなさん会など、それぞれの団体の代表が出席し、吉野復興大臣が感謝状を手渡しました。吉野大臣は「皆さんのように支援する人がいたからこそ、ここまで復興が進んでいる。復興大臣として感謝の気持ちを表したい」と話しました。復興みなさん会は平成23年10月から復興支援を継続しており、今回の感謝状は、今年2月の被災地支援の活動をたたえる「S（支え合い）-1グランプリ」の大賞受賞に続く榮譽となりました。



吉野大臣（中央）、最知副町長（右端）と記念撮影



福島県外避難者と交流会開催

福島県浪江町から宮城県に避難されている方25人が7月25日、視察研修で南三陸町を訪れました。一行は、復興みなさん会のメンバーの案内でさんさん商店街の近くの展望台から志津川市街地の被災の状況や町の復興の現状を視察しました。次にバスで戸倉地区に移動して、車窓から高台移転団地や災害公営住宅、海岸防潮堤などを見学。旧戸倉中学校（＝写真）では、津波襲来時の生徒たちの緊迫した避難状況について説明を受けました。



マジックショーで被災地を元気に！

長野県飯島町のマジッククラブのメンバーが 7 月 16 日、伊里前復興公営住宅で公演を行いました。

集会所で行われたマジックショーには入居者ら 13 人が来場。同クラブの宮澤大造会長ら 5 人のメンバーが得意のマジックを披露。花をテーマにした華やかなステージで観客を笑顔にしました。同クラブは 30 年以上の歴史があり、震災後の被災地支援の一環で始まった南三陸町での遠征公演は、今回が 3 回目です。



戸倉復興住宅で「椿はな咲くまちづくりお茶会」

戸倉復興公営住宅の集会所で 7 月 31 日、復興みなさん会主催の「椿はな咲くまちづくりお茶会」が開かれ、入居者ら 13 人が参加しました。

スイーツや椿茶をいただきながら、椿をモチーフにした小物作りのアイデアや、モアイバスを活用した「お出かけサロン」で訪ねたい場所について意見を出し合いました。みなさん会から、戸倉地区を対象にしたマップづくりが提案され、今後お茶会やワークショップで地域の情報を収集していくことになりました。

志津川中央復興住宅で「納涼まつり」

志津川中央復興公営住宅の集会所と広場を会場に 8 月 5 日、「納涼まつり」が行われました。宮城県曹洞宗青年会や、中央自治会、東大大学院の学生有志のボランティアが協力して開催したもので、入居者などおよそ 60 人が来場しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、曹洞宗の僧侶による演劇や子ども縁日コーナーなどのほか、「流しそうめん」も行われ（＝写真）、来場者を楽しませました。9 月には、自治会主催の敬老会が予定されています。



【椿 雑感】

つやつやの緑の葉っぱの間から、次々に「椿の実」がかわいい顔を覗かせています。いまはまだ緑色の、ピンポン玉ほどの大きさですが、秋になると一部紅色を帯び、やがて褐色に変じ、完熟すると三つまたは四つに割れて、種が顔を出します。亀裂が大きくなると実は弾け、暗黒色の種が地面に落ちます。

弾ける前の種たちは、まるでそれ自体が椿のように形を組んで、弾ける時を待っています。

椿には『表年』と『裏年』があるんですね。昨年は『うら』年。椿の実成りは少しかったです。今年には『おもて』の年のように、秋の種っこ拾いが楽しみです。拾った種は、避難路用の苗木にしたり、椿油に絞っても良かったり。

南三陸の椿油は、それはそれはとても眩しい黄金色をしています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrb@gmail.com

当会は今年度、宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」、南三陸町「おらほのまちづくり支援事業補助金」、東日本大震災現地 NPO 応援基金 [特定助成]「東日本大震災復興支援 JTNPO 応援プロジェクト助成金」の支援をいただき活動しています。